

# 令和6年度 2年次主幹教諭研修

本年度の研修について

令和6年5月17日(金)9:15-10:30

# School Leader Management Project

## 「令和の日本型学校教育」実現のための学校リーダー育成

徳島県教育委員会と鳴門教育大学が連携した「理論と実践の往還」による研修を通じ、

①マネジメント力、②アセスメント力、③コーディネーション・ファシリテーション力を有する学校リーダーを育成する。

( ①教育資源の管理・運営 ②情報やデータの収集・整理・分析・共有 ③関係者の相互作用創出による学校の教育力向上 )

徳島県教育委員会

校長 (校長格 <事務局勤務者>)

校長任用審査

教頭 (教頭格 <事務局勤務者>)

教頭任用審査

エキスパート  
ティーチャー

### 指導教諭

【指導教諭研修】

- カリキュラムマネジメント
- 校内研修の活性化

(セルフデザイン型研修)

- 授業実践力
- 授業省察力・改善力
- 集団づくり力
- 課題解決力 等

指導教諭任用審査

### 主幹教諭

【主幹教諭研修】

- マネジメント力
- 企画経営力
- 人材育成力
- 組織づくり力
- 危機管理能力 等

主幹教諭任用審査

### 指導主事

【ファシリテーション  
能力養成研修】

- アセスメント力
- 企画提案力
- ファシリテーション力 等

指導・助言

リーダーシップ養成研修

鳴門教育大学

管理職としての力量形成

教職大学院

- 学校づくりマネジメントコース
- ・学校籍で2年間派遣(教頭格)
- ・2年目は置籍校で実践研修

大学連携強化

学校力向上拠点校事業

- ・年4回程度の研修を1年間
- ・学校訪問の事前事後研修

独立行政法人教職員支援  
機構 四国地域教職

アライアンスセンター

- ・年6回程度の研修を2年間
- ・所属場所で勤務しながらの研修

※連携・協働

※指導・助言

# 主幹教諭研修の特徴

1

## 県教委と鳴教大の協働による研修

- ・県教委指導主事2名がコーディネーターとして鳴教大に週2日勤務
- ・毎月、スタッフによる会議を実施

2

## 管理職としての力量形成の研修

- ・研修終了後に教頭任用審査一次を免除

3

## アップデートを続ける研修

- ・スタッフ自身も知識と意識を常に更新

# 本年度のアップデート

1

キーワードは「新たな教師の学びの姿」

# 新たな教師の学びの姿

Q1

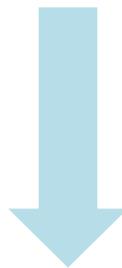
「新たな教師の学びの姿」って何？

Q2

なぜ今「新たな教師の学びの姿」  
が求められているのか？

# 新たな教師の学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して  
～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、  
協働的な学びの実現～（答申）  
（令和3年1月26日 中央教育審議会）



「令和の日本型学校教育」を  
実現できるかどうかは、  
教員の力量にかかっている。

「令和の日本型学校教育」を担う  
教師の養成・採用・研修の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を  
有する質の高い教職員集団の形成～  
（答申）  
（令和4年12月19日 中央教育審議会）

# 新たな教師の学びの姿

- 子供たちの学び（授業観・学習観）とともに  
教師自身の学び（授業観）を転換し、  
「新たな教師の学びの姿」  
（個別最適な学び・協働的な学びの充実を通じた  
「主体的・対話的で深い学び」）を実現。
- 教職大学院のみならず、養成段階を含めた  
教職生活を通じた学びにおいて、  
「理論と実践の往還」を実現する。

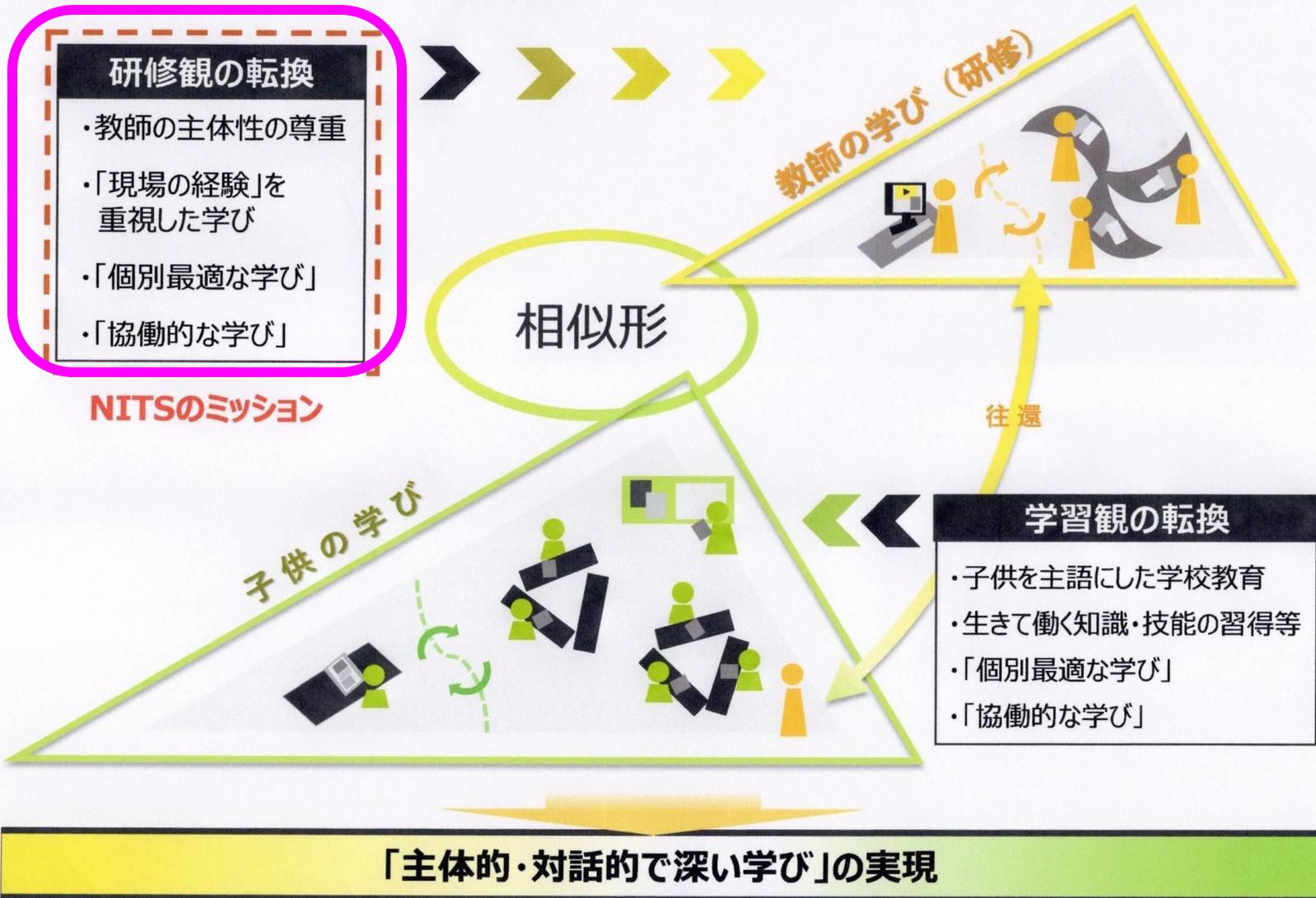
「『令和の日本型学校教育』を担う教員の養成・採用・研修等の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～  
(答申) (R4.12.19 中央教育審議会)

# 新たな教師の学びの姿

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」

「『令和の日本型学校教育』を担う教員の養成・採用・研修等の在り方について  
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～  
(答申) (R4.12.19 中央教育審議会)

# 新たな教師の学びの姿



# 本年度のアップデート

1

キーワードは「新たな教師の学びの姿」

・「セルフデザイン型フィールド・ワーク」の実施

# セルフデザイン型フィールドワーク(SD型FW)

目的

主幹教諭研修の目的:主幹教諭の指導力及び組織マネジメント力を高め、学校組織の活性化を図る次世代のスクールリーダーを育成する。

FW実施により  
付ける力

SD型FWの目的:とくしま教員育成指標のすべての項目を含む。

身に付けたい力を育成する。

A

学びの振り返り

受講者が定める目的

自己調整で研修のPDCA  
サイクルを機能させる

FW実施への過程  
で付ける力

育成指標 素養:社会性・人間関係構築力  
学校マネジメント力:企画経営力 連携・交渉力  
・チームで協働し、自らがたてたミッションの達成に向け、努める姿勢の大切さを改めて捉える

第6回研修で2年間の  
学びについてSD型FW  
を軸に成果を発表

SD型FWで得た学びを研修等を通して教育現場に落とし込む  
★学校リーダーとして、この学びをどのように生かしていくか考察★

研修の仕様

- ・FW先は、徳島県内の学校、関係機関、フリースクール、企業、団体等。人物に着目し、個人で活躍される方も対象とする。(例:徳島に移住し地域活性に取り組む代表)【注】利害関係者にあたらないように注意する
- ・研修時間 9:00~12:00、13:00~16:00を基本とする。(半日を学校等で振り返りや協議を実施することも考えられる。)
- ・研修実施日は、8月~10月の平日を基本とする。・謝金は、5,200円/(1時間)を目安とする。

## ① 協議、連絡方法の確保

- ・主幹教諭研修(第1回、第2回、第3回、第5回のグループ協議20分と第3回の午後)
- ・連絡、調整の方法を確保(まなびポケットもツールのひとつ)

## ② グループ内で共有

- ・SD型FWの目的を共有する
- ・グループ内日程調整 FW実施日(予備日)とそれまでのスケジュールと業務の確認(STACとの連絡役を決定)

## ③ 目的とコミットする研修先の調査

- ・第2回研修時に、複数候補(3つ程度優先順位をつけて)を報告

## ④ アポ取り(STACの要確認)

- ・目的、日程、会場、内容、代表者、担当者、謝金、準備物、交通手段、予備日も含めて確認

## ⑤ 決定

- ・計画書と実施要項の作成 実施6週前をめどに提出(別紙1、2)
- ・実施要項は所属に向けての派遣文書とFW先に向けての依頼文書の使用

## ⑥ 実施

実施後礼状の作成

成果発表会に向けて振り返り、発表成果物の作成

明確な目的があるFWに！！

# 本年度のアップデート

1

キーワードは「新たな教師の学びの姿」

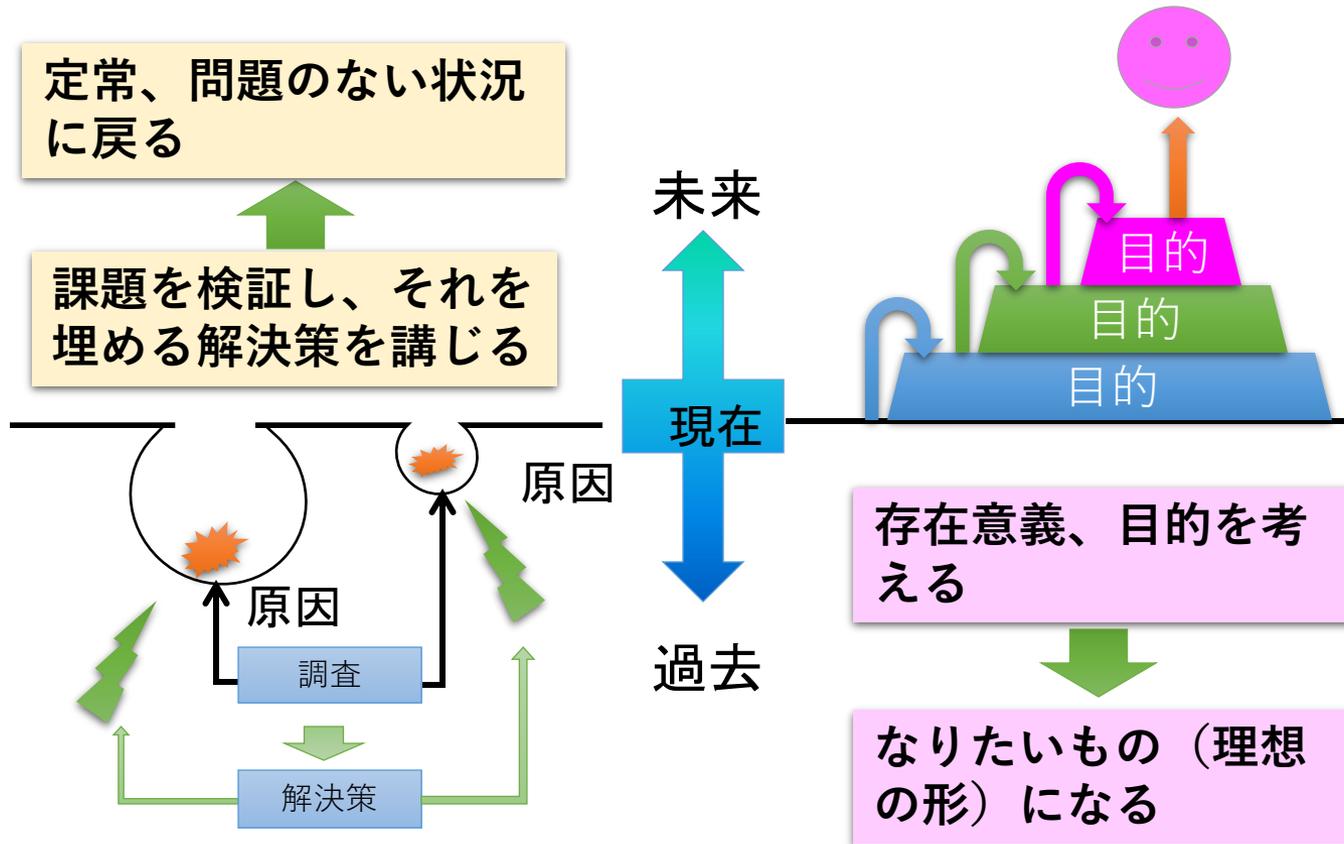
- ・「セルフデザイン型フィールド・ワーク」の実施

2

2年目は「校長」としての力量形成

- ・「問題」解決と「課題」解決
- ・企業等からの学び

# 「問題」と「課題」



## 松坂 考紀氏

神山まるごと高専  
事務局長/副校長

学校教育に新風を  
吹かせたい。



東京大学教育学部卒業後、人材教育会社に入社。  
2017年に人事コンサルティング会社を企業。  
企業や地方自治体の人づくり・組織づくりプロジェクトを  
多数推進する。  
2021年より神山町に家族で移住し、神山まるごと高専の  
立ち上げに参画。

## 神山まるごと高専

2023年 開校  
日本で19年ぶりの新設高専



## 夏目 敦子氏

富田製薬株式会社  
執行役員  
管理本部 本部長

これからの企業は  
人材育成が重要。



徳島出身。教育学部を卒業後、ジャストシステムに入社。人事部主任として活躍後、リクルート代理店へ入社し、その後、富田製薬株式会社へ転職する。人事部長、管理本部長を務め、執行役員として現職に至る。二児の母。

「徳島県教員育成協議会」の委員。

<資格取得>

幼稚園教諭、小学校教諭、秘書検定、第二種衛生管理者、  
産業カウンセラー、ハラスメント相談員



セルフデザイン型フィールド・ワーク

## 先輩管理職・現職校長から学ぶ



現在、内容を検討中！  
乞うご期待！

# 本年度のアップデート

1

キーワードは「新たな教師の学びの姿」

- ・「セルフデザイン型フィールド・ワーク」の実施

2

2年目は「校長」としての力量形成

- ・「問題」解決→「課題」解決
- ・企業等からの学び

3

個人の力量形成を意識

- ・「徳島県教員育成指標」が道しるべ

Q3

「学級経営に必要な力と  
学校経営に必要な力の  
基本は同じである。」

あなたはどうか考えますか？

Q4

あなた自身のこれからの学びは？

## 成果発表会（フィールド・ワーク発表会）

自分自身の力量形成についての振り返りとこれからの学びについて

閉 校 式

# 個人の力量形成

みなさんの1年間の成長に  
わたしたちも寄り添っていきます。

一緒に「自分のアップデート」を  
楽しみましょう！